

大学間単位互換履修登録・学修支援システムの運用

Introduction of Registration and Learning Management Systems on Interuniversity Credit Transfer Activities

阿部 一晴*1, 杉山 将人*2, 安部 明雄*2

Issei ABE*1, Masato SUGIYAMA*2, Akio ABE*2

*1 京都光華女子大学 キャリア形成学部

*2 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育事業部

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし: 大学コンソーシアム京都における大学間連携主要事業に、加盟大学等による単位互換がある。その一環として提供していたeラーニング授業は一旦その役割の見直しのため2019年3月に提供を終了した。これに伴い、eラーニング授業提供のために開発したプラットフォームは、単位互換履修登録・学修支援システムとして再構築した。「e 京都ラーニング」という名称で運用しているこれらのシステムの概要と展望等について報告する。

キーワード: 単位互換授業, 大学間連携, コンソーシアム, 履修登録

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、1998年3月に文部大臣(当時)より財団法人(2010年より公益財団法人に移行)としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。この中でも加盟大学相互の単位互換事業は、財団の前身である「京都・大学センター」設立当初に開始された中核事業である。提供科目数も減少してはいるが、現在も400科目前後で推移している。ピーク時は年間のべ10,000名を超える受講者があったが、ここ数年受講者数は縮小傾向にある。

2. 単位互換事業の概要

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。

表1: 単位互換事業の推移(2012~2019年度)

| 年度 | 協定大学 | 提供大学 | 提供科目 | 出願者 | 履修者 |
|------|------|------|------|-------|-------|
| 2019 | 45 | 40 | 415 | 1,405 | 1,271 |
| 2018 | 45 | 40 | 427 | 1,984 | 1,842 |
| 2017 | 46 | 40 | 435 | 2,549 | 2,400 |
| 2016 | 48 | 41 | 457 | 3,369 | 3,120 |
| 2015 | 48 | 43 | 589 | 3,615 | 3,412 |
| 2014 | 48 | 44 | 516 | 5,287 | 4,702 |
| 2013 | 50 | 46 | 540 | 5,754 | 4,952 |
| 2012 | 51 | 45 | 551 | 6,055 | 5,601 |

この単位互換事業には、約50大学・短期大学が単位互換包括協定を締結し、毎年400~450科目前後を提供している。受講者数は、ピークであった2001年度にのべ14,000名を超える出願、10,000名を超える受講があった。

ここ数年の推移を見てみると、2016年度は提供科目数が457科目と前年度より大きく減少したものの3,120名の受講があった。2017年度は435科目を提供し2,400名が受講、2018年度も427科目を提供し

たが、受講者数は1,842名とこれまでより大幅に減少した。2019年度は415科目の提供、1,271名の受講であった。全体の受講者数はここ数年減少しているが、提供科目数、受講者数ともに、現在も大学間の単位互換制度としては日本最大規模を維持している。(表1)

これとは別に「京(みやこ)カレッジ」という名称で提供している社会人向けの生涯学習に毎年約1,500名前後の出願があり、このうち一部科目は単位互換事業に相乗りという形での受講となっている。(表2)

表2: 京カレッジ(生涯学習)事業の推移(2012~2019年度)

| 年度 | 科目提供大学等 | 提供科目数 | 出願科目数 | 出願者数 | | | | | | 一人あたり併願科目数 | 受講許可者数 |
|------|-------------|-------|-------|--------|-----|--------|--------|-----|--------|------------|--------|
| | | | | <実数> | | | <延べ数> | | | | |
| | | | | 前期 | 後期 | 合計 | 前期 | 後期 | 合計 | | |
| 2019 | 31大学 2機関 | 257科目 | 122科目 | 812名 | 7名 | 819名 | 1,558名 | 12名 | 1,570名 | 1.9科目 | 1,329名 |
| 2018 | 34大学 2機関 | 274科目 | 120科目 | 773名 | 14名 | 787名 | 1,407名 | 15名 | 1,422名 | 1.8科目 | 1,297名 |
| 2017 | 30大学 2機関 | 276科目 | 127科目 | 1,048名 | 7名 | 1,055名 | 1,655名 | 24名 | 1,679名 | 1.6科目 | 1,315名 |
| 2016 | 31大学 2機関 | 314科目 | 154科目 | 812名 | 21名 | 833名 | 1,576名 | 34名 | 1,610名 | 1.9科目 | 1,292名 |
| 2015 | 34大学 2機関 | 449科目 | 178科目 | 809名 | 10名 | 819名 | 1,921名 | 25名 | 1,946名 | 2.4科目 | 1,743名 |
| 2014 | 34大学 1機関 | 373科目 | 172科目 | 698名 | 18名 | 716名 | 1,701名 | 47名 | 1,748名 | 2.4科目 | 1,525名 |
| 2013 | 36大学 1機関 | 428科目 | 194科目 | 506名 | 16名 | 522名 | 1,074名 | 40名 | 1,114名 | 2.1科目 | - |
| 2012 | 36大学 1機関 | 469科目 | 228科目 | 596名 | 18名 | 614名 | 1,265名 | 62名 | 1,327名 | 2.1科目 | - |

3. eラーニングへの取り組み

この単位互換事業には、2011年度から、一部加盟大学の取り組みを発展・拡大したeラーニングによる授業の提供が加わった。しかし、単位互換制度そのものを取り巻く環境の変化等から一定の役割は終了したと判断し、eラーニング科目に関しては2018年度末を以て、その提供を終了した。この間、合計103科目のeラーニング科目の提供をおこない、のべ4,757名の受講があった。

eラーニング科目の提供は、2008年度からの文科省「戦略的・大学連携支援事業」としての採択が基になっており、その事業趣旨に鑑み、長期的な視点で取り組んできたが、大学コンソーシアム京都の「第4ステージプラン（2014～2018年度中期計画）」において、事業コストの問題からサーバー保守期限を踏まえた事業継続について判断が必要となっていた。事業開始から10年にあたる2018年度一つの区切りとし、大学コンソーシアム京都における10年間にわたる単位互換eラーニング科目の提供を一旦終了した。

ただし、eラーニング提供プラットフォームの中核であるmoodleは、通常の単位互換・生涯学習事業におけるレポート提出、資料配布、受講者への連絡、小テスト等でも使用されており、これらの機能を今後も維持するためにはソフトウェアのバージョンアップ、ハードウェアの更新等を継続していくこととなった。

4. 履修登録・学修支援システムの概要

前述のeラーニングへの取り組みのためのプラットフォームとして「e京都(イーこと)ラーニング」という名称のシステムを開発、運用してきた。(図1)



図1:e京都ラーニング

このシステムは、eラーニング授業提供終了後も単位互換事業に関する情報ポータルとして継続利用されることとなり、運用を維持するためのハードウェア、ソフトウェア及び人的リソースのための予算も確保されている。単位互換事業に参加する学生の受講に必要とされる情報（休補講情報など授業に関するお知らせ、教室案内や試験・レポート実施情報など受講に関する重要な掲示など）、提供科目のシラバス情報等はすべてここで提供される。

また、このシステムの内部ではmoodleが稼働しており、必要に応じて単位互換授業（主に科目提供大学の教室で実施されるオンキャンパス科目以外）での学修支援システム(LMS)としても利用される。

各大学で運用される教務システムのコンソーシアムにおける単位互換版という位置づけであるが、最も重要な役割は単位互換科目の履修登録機能である。

実際の履修登録は以下の様な流れとなる。

- (1) 単位互換制度で科目を履修しようとする学生は、Web上の大学コンソーシアム京都ホームページより「e京都ラーニング」に進む。「新規登録」を選び、自分の情報登録を行う。全て登録すると「確認画面」の表示ののち、本人にシステムが生成するワンタイムパスワードを含んだメールが届く。
- (2) このメールに記載してあるURLにアクセスし、IDとパスワードと共に、メールで送られてきたパスワードを入力すると登録が確定する。この段階では、メールアドレスの確認、学生のIDと学生本人に決めさせたパスワードでシステムにログインできることを確認させている。
- (3) 「e京都ラーニング」にログインできた学生は、次に科目の出願を行なう。出願画面にはその学生が履修することができる科目のリストが表示される。授業科目には予め出願できる大学情報が付記されており、それにより出願可能な学生が決まる。学生はその科目リストから目的の科目を選び、志望理由を記載し出願する。

学認によるShibboleth認証にも対応しており、当該機関所属の学生は、上記新規登録の手順を省略して出願が可能である。

現在のところ、協定大学に所属する学生のみが対象であり、京カレッジ（生涯学習）の受講生は紙ベースの手作業による出願処理を継続している。今後それらもこのシステムで対応できるように検討していく必要がある。

5. まとめ

約10年間にわたり取り組んできた大学コンソーシアム京都におけるeラーニングは、役割を終えたが、開発したシステムは継続して活用されることになった。一方、単位互換事業そのものも大きな転換点を迎えており、これまでの実績を活かしつつ、見直しを進めている。具体的には、(1)大学設置基準の見直しに伴う事業の改善 (2)京都ならではの特色ある科目の展開と加盟校・学生の参加の促進 (3)グローバル科目の開設及び求められるeラーニングの仕組みづくり (4)リカレント教育の推進といった視点で改革を進めることとなっている。特に、新たなICT技術やデジタルコンテンツを活用したeラーニングの仕組みづくりの検討という課題も具体的に示されており、再度eラーニングへの期待も高まっている。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順: “大学間単位互換eラーニング授業の課題と展望”, 教育システム情報学会, 第44回全国大会講演論文集, pp.373-374, (2019)
- (2) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順: “大学間単位互換eラーニング授業10年間の取り組み”, 教育システム情報学会, 第43回全国大会講演論文集, pp.67-68, (2018)
- (3) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2020)
- (4) e京都ラーニング, <https://el.consortium.or.jp/> (2020)